

土佐の古道 添蚯蚓坂 探訪の栞

夏枯峠 大野見 本虫丘虫引 八丁石 東屋 西茅舎

(注) 七子→スレ 方面への下り仕様です

お大師像 山城国 森本甚吉 建立

無敵の修業

橋のたもと 梅の木

92段

337段

36段

方衣人の口を うるおした 弘法清水

遍路道の 階段

おなみさんの供養碑

- 五社へ四里
- 四万十川へ十五里半
- あしおしへ三十五里
- てら山へ三十八里
- いよ境まで四十一里

と刻まれている。
(一里=約4km)

石たたみ

昔の舗装道は 石を敷き詰めて 土砂の流出を防止 していた。
先人の知恵と努力の ぬえが 随所で見られる

足元が不安定なので 十分に気を付け!! 特に下りは慎重に。 ぬれた落葉も 危い!!

海月庵跡と比べると 車の音も遠ざかり 森閑とした「静」の 世界に入る。

中世から床金鍋とスレを結ぶ往還道 として重要な役割を担っていました。 「添蚯蚓虫引」とは、みみずがはった 跡のように曲がりくねっていることから 名付けられたといわれています。 1000年の時を刻む歴史の山道です。

海月庵

弘法大師がスレから 添蚯蚓坂を渡り 頂上まで来ると黄昏時に 十五夜の月が双鳥 の中合に昇っていた。 その美しさは真如の光に 感動し 草庵を結び海月庵 と名付け、地蔵と 大師自像を刻み しばらく修業したと 伝わる。

久礼

牛馬に荷車を引かせ、俵と背負われ 米や木材、薪などを運んだ坂道。 昔の人の苦労が偲ばれる。 昔は荷車引きと渡世とする職業も あった。

やがて高速道路の 時代が到来する。(H24予定)

サカキ木

手の鏡池

落ち葉がクリスタルとなって このうえなく歩きやすい。 往還道。

枝ひとつ落ちないくらい 整備された☆☆☆の道☆☆ (ミツ星)

山内の殿様も籠に乗って 西部巡検に往來したところ。 ここは景色のえいよく 籠を止めよ。余は歩いて みようぞ」と言ったかも。

乗合自動車

弘法大師聖海 申基と伝わる庵跡 海月庵があった。

藩主の 龍は、当時の ロイヤル・サレ!

逢坂谷 へんろ道

不動が滝の 不動明王像 崖より70m

インフラ工事跡。 聖川の米や枝、木材、スレの 港から積み出すため計画 されたが、豪雨工事で 中止となり成功しなかった。

海月庵堂

お大師はじめ 三体の自像や 野仏。

へんろ宿「赤野屋」があった

舟形石

アサキの大木が あり、そこから 舟形石が 採れると 言われている。

しらお、 白皇城跡

室町で最初の 古城(577年) 白皇千助の築いた 山城。 城跡は樹木に覆われて いるが、樹木から 室戸岬-五郎崎が 見わたせる。堀跡が周囲を 囲んでいる。 白皇千助は平家家臣 元慶元年(877年)築城。

人生 川邊路

人生 川邊路 山奥へ

馬頭観音碑

七子峠

昔から 窪川一帯は七つの郷があり その郷に入る峠であることから 「七郷峠」と言われ、親しみを込めて いっしょに「七子峠」と呼ばれるようになった。

床鍋

圓福山 永林寺

あまの峯

あまの峯

遍路道標

あまの峯